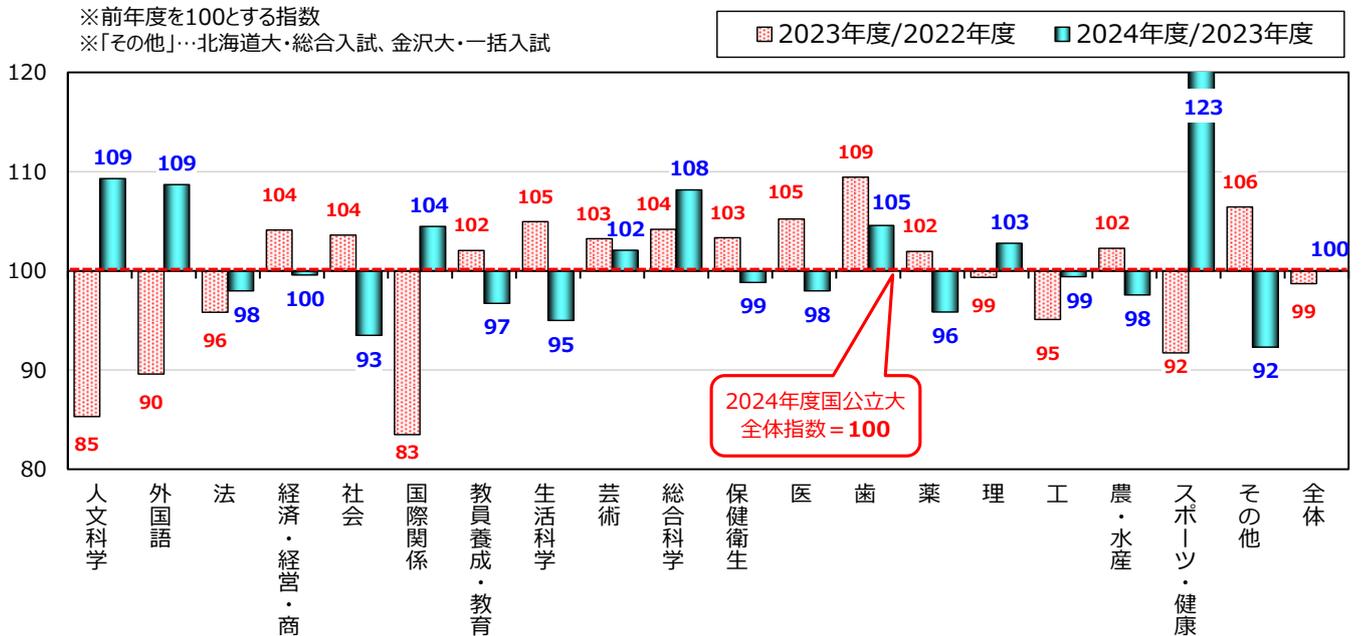


※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎系統別志願状況

□スポーツ・健康は大幅増加、人文科学、外国語、総合科学は増加 社会、生活科学、薬、教員養成・教育はやや減少



スポーツ・健康(123)は大幅増加、人文科学(109)、外国語(109)、総合科学(108)は増加、歯(105)、国際関係(104)、理(103)はやや増加でした。一方で、社会(93)、生活科学(95)、薬(96)、教員養成・教育(97)はやや減少でした。これら以外の7系統は前年度並でした。なお、2年連続増加したのは芸術、総合科学、歯の3系統で、2年連続減少したのは法、工の2系統でした。これらの系統が人気の高低が継続している系統といえます。

文系の系統では、コロナ禍や世界的な物価上昇による渡航費用の高騰などの影響を受けて留学などが不安視された外国語(109)が5年ぶりに増加しました。同じ影響を受けていた国際関係(104)もやや増加しました。人文科学(109)も増加し、一般選抜における「理高文低」の傾向の変化が見られます。厳しい職場環境が伝えられる福祉関係の学部・学科が含まれる社会(93)はやや減少で、国家公務員の勤務状況等の報道などから法(98)も微減となりました。

理系では、理(103)は島根大(206)、横浜市立大(167)、茨城大(136)などの大幅増加が影響し、やや増加しました。工(99)は微減、食糧問題などで注目される農・水産(98)は微減となり増加傾向に歯止めがかかりました。

メディカル系は、コロナ禍の収束により高かった人気沈静化しています。歯(105)はやや増加で2年連続増加、共通テストの平均点アップによる目標点が高くなった医からの志望変更の影響もありました。一方で、医(98)は微減ですが、前期は前年度並でしたが、目標ラインが高い後期はやや減少で出願をあきらめた層が見られました。保健衛生(99)は微減でしたが、コロナ禍の影響で、ここ数年人気が高まっていた薬(96)はさすがに反動でやや減少となり、増加傾向に歯止めがかかりました。

文理いずれからも志願者がいる系統では、スポーツ・健康(123)は前年度減少の反動とパリオリンピックで報道が増えたことなどで大幅増加しました。総合科学(108)は情報系を含むこともあり増加、芸術(102)は映像系を含むこともあり微増で3年連続増加しました。一方で、人気が高まらない女子大での設置が多い生活科学(95)はやや減少、教員養成・教育(97)もやや減少でした。

最後に、複数の系統を一括募集するその他(92)は、金沢大一括入試が文理合計で(59)と前年度激増した反動で大幅減少したことが影響して減少となりました。